

▶ふくろうの神輿が来たら祭りの始まりです



社会福祉法人
ひょうご聴覚障害者
福祉事業協会

<発行>
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会

〒656-0002
洲本市中川原町中川原28番地1
TEL: 0799-25-8550
FAX: 0799-25-8551

ホームページリニューアルしましたので、よろしくお願ひ致します。



6月25日(日)に初夏祭りを開催しました。9時30分頃に職員が神輿を担いでユニットを回りました。入居者様はとても喜んでおられ、一緒に「わっしょい、わっしょい」と言われ手を叩いておられました。

11時30分頃から屋台やゲームに参加されました。屋台は冷やしうどん、ケーキ、フランクフルト、たこ焼き、メンチカツ等があり、みなさん思い思いのものを買っており、美味しそうに食事スペースで食べられています。また、ゲームコーナーでは、輪投げ、ストラックアウトやボリングに参加され、輪っかに通した時やピンを倒した際など笑顔が見られ楽しんでおられました。

午後より、ふれあい座による宮沢賢治の「注文の多い料理店」

6月24日評議員会で理事の承認を得、その後の理事会では、全員の賛成で新理事長として、小林泉理事を選出しました。長年、ひょうご聴覚障害者福祉事業協会をけん引、「一人ひとりを大切に(人権)ともに生きる(共生)」理念を体現してきた大矢暹前理事長、ありがとうございました。

の劇と手話うたが行われました。真剣な表情で劇を観ておられる方や、演じる職員のユーモアあふれる場面では、入居者様の表情も和らいでいました。手話うたでは、職員も一緒に参加し盛り上がっていました。

今年もコロナ禍であり小規模な初夏祭りでしたが入居者様に楽しんで頂けたと思います。来年は家族様と一緒に初夏祭りを過ごすことが出来ればと願っています。

(生活援助係 川崎弘統)



▲屋台を楽しむ中脇さん



▲太鼓の音もあり、目だけでなく耳でも楽しませてくれました。



▲お揃いのお面をつけて演劇鑑賞



▲神輿と記念撮影 吉見さん

ふくろう物語 溝渕 せつ様

昭和32年9月22日大阪で生まれました。現在63歳です。

2歳下に弟さまがいます。家族は、みなさま聞こえます。家族とのコミュニケーションは筆談か身振りで会話をしていました。本人や、施設でお世話になった方に、お話を伺いました。ろう学校に通うために、京都へ家族で引越ししました。幼稚部から高校まで京都のろう学校に通いました。学校では、手話は禁止で、口話教育でした。



▶絵手紙講座での溝渕さま

高校卒業後は、印刷会社で、「見聞」の仕事につきました。主に、本のシール貼りや裁断を担当しました。10年間勤めあげました。その後、近畿ろうあ者のお見合いパーティーに参加され、今は亡きご主人と出会いました。

京都から淡路島に嫁いで

結婚後は、旦那さまのご両親と一緒に生活し、ご両親と農業の手伝いをされていました。ご主人のお母さまは厳しい方でしたが、負けず一生懸命働かれています。男の子を設けました。子育ても、ご主人の協力はなく、ご主人のお母さまが隣の部屋で、赤ちゃんが泣いたら、起こして下さり、お世話をしたそうです。息子さまは、聞こえる子だったので、またご主人以外は、聞こえる人で、姑さまが厳しいこともあり、息子さまとのコミュニケーションは、手話はなく口話か筆談で会話していたとのこと

聞こえない仲間との出会い

淡路に嫁ぎご友人もいなくて、悩まれていた時に、当時手話サークルの会員で、聴覚障害者センターの職員だった方のご紹介で、淡路聴力障害者協会のことや、同じ聞こえない仲間がいることを紹介していただき、協会の行事や手話サークル、センターの社会生活教室などに参加され、楽しみも増えたそうです。

平成19年から、おのころ作業所(現…おのころの家)に通所。同じ仲間と交流しながら話されたり、一緒にご飯を食べたり、作業をされました。令和2年の9月頃に病気が見つかり、治療のために、おのころの家を退所しました。口腔からの食事が出来なくなり、胃ろうになったため、家族と相談し、淡路ふくろうの郷のショートステイを利用となり、令和5年1月から長期入居となりました。

ふくろう学びあい文庫

経済成長期のじゃま者たちを読んで

竹邊さんは大矢さんとともに神奈川県で講演された時にお会いしたことがあります。その時に50年近く精神病院で人間らしい人生を送られていなかったことを聞いて大変ショックを受けたことを覚えています。

居室でのんびりと、趣味の編み物や塗り絵を楽しまれて生活されています。今後、どんな生活をしたいですか？とお尋ねしますと、「塗り絵や編み物を楽しみながらのんびり過ごしたい。」「いろんなものを食べたい。好き嫌いなから」と話されました。行事の言葉かけも行い、気分が向いた時には、参加していただけたらと思っております。
(生活援助係 伊達美紀)

この本を読んでいろんなことが重なって社会的入院をさせられたことがよくわかりました。私が特に注目したのは、どうやって竹邊さんを見つけふくろうの郷に入所するまでの道のり、そしてその後の失われた人生をどのように取り戻すかでした。取り戻すのではなく、当たり前前の生活行動を学んでいく様子は大変興味深いものでした。実際30~40代で精神を患う人も増えてきており、入退院を繰り返す人もいます。退院後の社会的孤立を防ぐために地域の支援機関との連携も重要だと感じました。社会資源を活用する視点に向けていきたいと思えます。とても参考になりました。ありがとうございました。

(ふくろうの郷に届いた感想文を紹介させていただきました。)

リーダー研修

『人が育ち、自分も伸びる』

『リーダーシップ研修』を受講して

今年の 3 月より、ユニットリーダーを任せられることになり、この度リーダー養成の研修を受けました。特に關心させられたことが 2 つ。1 つ目はリーダーシップについて。リーダーシップとはチーム(部署)のなかで問題解決、業務改善を確実に成し遂げるために、その方を示し行動を促す力です。これまでなんとなく認識している事でした。感心させられたのは次の点、問題解決や業務改善を行う上での障害を取り除くために行動すること。これは自分で解決するだけでなく、現場だけでは解決できない問題を正確に上(上司、現場を統括する部署など)に伝え、問題を取り除くために必要なことを提案し、上を動かすことも含まれるとのことでした。上から下だけでなく、下から上にも發揮する必要があるのがリーダー

シップであり、リーダーに必要な行動力とのことです。感心させられたことの 2 つ目は、同僚や先輩への指導や注意の方法についてです。リーダー養成の研修で行っているこの話をよく聞かれるようですが、指導や注意を行う際に必要なのは技術ではなく、環境・関係作りであるとのことでした。たとえ指導や注意の技術を学んでも、お互いに話し合いの出来る環境、同僚・先輩との良い関係性がなければ伝わらないとのこと。確かに、自分の今までの経験を振り返ってみると、普段から会話をしない先輩や失敗した時だけ話しかけて来る上司に言われたことは聞く気になれないことが多かったように思います。しかしながら、仲の良い先輩や、普段から仕事ができたらしっかりと評価してくれる上司からの指導や注意はこちらも真摯に受け止め、改善しようと取り組んだ覚えがあります。自分がリーダーという立場に

の指導や注意を行う必要があると考へ、その方法に悩んでいましたが、今回の話を聞き、自分の今までの経験を振り返り、難しく考えすぎているように思いました。リーダーという立場に固執せず、何でも話し合えるチーム作りができるようにもつと皆と話をしようと思えます。今回の研修はこの 2 点以外にも感心させられたことやためになる話が多くありました。感心するだけで終わらず、日々の行動に活かせるように取り組んでいきたいと思えます。(生活援助係 岡本 洸一)

8月 ふくろうの暮らし

- 8/ 1(火) ふくろう大学演劇講座
- 8/ 2(水) 誕生会
- 8/ 7(月) ふくろう理髪店
- 8/ 8(火) 回想法
- 8/ 9(水) 手話講座
- 8/19(土) ふくろう大学書道講座
- 8/23(水) ふくろう喫茶
- 8/25(金) ふくろう大学料理講座

ふくろう学びあい文庫の紹介

『手話で語る戦争体験』

ふくろうの郷入居者の証言を聞く



～伝えたい平和の願い～

「戦争体験を描いた本はたくさんあるが、ろう者の戦争体験を集めたものはない」と、当時、淡路ふくろうの郷応援団の地域交流会代表で、今は亡き北岡肇さんの発案で発行された本です。

目次

「武内千代美さんに学ぶ戦争体験」

(聞き手 中村久香)

「差別と闘い平和を願う 吉見輝子さんに学ぶ」

(聞き手 大矢暎)

「被爆者の語り部 山崎榮子さんに学ぶ」

(聞き手 石黒裕規)

文庫◎ 1000円(税込)

企画・編集・発行/ふくろうまなびあい文庫編集委員会

〒656-0002 兵庫県洲本市中川段町中川段28番地1 特別養護老人ホーム淡路ふくろうの郷気付
TEL: 0799-25-8550 FAX: 0799-25-8551 ホームページURL: http://fukuroku.com/ *数量が多い場合はご相談ください

注文書

FAX 0799-25-8551 ふくろうまなびあい文庫編集委員会

お名前		文庫◎	冊
FAX&TEL		数量	円
住所	〒 -		

※送料は別途必要となります。

淡路聴覚障害者

センター便り

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階

われます。

■認知症発症のリスク

また難聴は聞こえにくさから会話に参加することが困難になり、人とのつながりが希薄になるなど社会生活への影響も多くなり、補聴器が高額なため購入しにくいという状況が懸念されています。また、高齢者では認知症発症のリスクも増加していることが報告されています。認知症発症のリスクを減らすためには、適切な補聴器の装着が有効です。

題があります。小児は新生児期、またヒヤリングフレイルスクリーニング検査が導入され、市民に対して意識の高揚を図っています。

■センターとしても啓発を

身障手等の等級はデシベルで判断されますが、大事なのは、聴力だけでなく、聞き取る力があるかどうか。語音明瞭度などについても啓発の取り組みを進めていく必要があります。

6月8日に第1回在宅医師が希薄になるなど社会生活への影響も多くなり、補聴器が高額なため購入しにくいという状況が懸念されています。

加齢に伴う聴力の低下、WHOはガイドラインを作ることが定着していません。行政としてフレイル対策を現在、東京の豊島区では、医師会と連携し、65歳以上の方を対象にヒヤリングフレイル（高齢になつて音が聞き取りにくくなる状態のこと）を早期に発見し専門医の受診につなげる取り組みを進めています。介護予防センター、町の相談室など縦横の機関が連携し、対策を展開して

療・介護連携セミナー 第1回「すもトーク」が開催され「聞こえていないか？」と意識する人が増えています。認知機能は言葉に依存が14%、しかも補聴器店へ行く人はさらに少なくなっています。補聴器が高額なため購入しにくいという状況が懸念されています。また、高齢者では認知症発症のリスクも増加していることが報告されています。認知症発症のリスクを減らすためには、適切な補聴器の装着が有効です。

■加齢に伴う聴力の低下

聴覚の衰えは40歳から始まり、65歳〜74歳の3人に1人、75歳以上では2人に1人が難聴に悩んでいると言

難聴が見逃される理由はいくつかあります。まず、聴覚の衰えは40歳から始まり、65歳〜74歳の3人に1人、75歳以上では2人に1人が難聴に悩んでいると言

難聴が見逃される理由はいくつかあります。まず、聴覚の衰えは40歳から始まり、65歳〜74歳の3人に1人、75歳以上では2人に1人が難聴に悩んでいると言

難聴が見逃される理由はいくつかあります。まず、聴覚の衰えは40歳から始まり、65歳〜74歳の3人に1人、75歳以上では2人に1人が難聴に悩んでいると言

あなたの聞こえは

大丈夫？



町の相談室など縦横の機関が連携し、対策を展開して

夏の健康管理について

第2回社会生活教室:6月30日(金)



今回は、「夏の体調管理～夏バテなど体調管理の方法を分かりやすくお話していただきまし

など体調管理の方法を分かりやすくお話していただきました。参加者からは「クーラーが苦手なので、寝るときは冷却マクラをしている。」「週に一度、50分間歩いて汗をかいている」など、夏バテ予防の工夫しながら生活されていることが分かりました。参加者からは「講師のお話は分かりやすくてよかったです。」と好評でした。(酒井)



自主火災避難訓練を実施しました

中川原高齢者・障がい者地域
ふれあいセンター



☎ 656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
TEL 0799-28-0990
FAX 0799-28-0992



6月19日(月)午後1時45

分から、中川原地域ふれあいセンターにて地域の方・利用者・職員・洲本市各43名が火災避難訓練を実施しました。

まず、当センター厨房室で出火から利用者・職員が「火事だ」と気づき、皆さんに知らせます。聞いた支援員が消火器をもって駆け付けて、初期消火を試みたが、消せない



と判断し、消防署へ連絡、避難誘導。「逃げましょう」のプラカードを持って振ります。

おのころの家利用者・安全帽子を着用しているデイ利用者のみなさんは職員の誘導でふれあい工房のところに避難しました。各事業所の職員で点呼無事を確認して、隊長に報告しました。午後1時55分、避難訓練が無事終了しました。11月に消防署が来訪し、避難訓練を行なう予定です。(防災担当 橋詰)

「なぜむせるのか？」

デイサービス職員研修

6月29日(木)午後5時

30分、デイサービス桜ヶ丘にて言語聴覚士の浜口さんを講師に迎えてデイ職員研修会を行いました。昨年に続き2回目です。今年度4月から月に数回、利用者の嚥下状態や食事の形態、食事中の姿勢の改善等アドバイス頂いていきます。研修会では嚥下やムセの仕組み、トロミの濃度を段階的に作成、試食体験し、わかりやすく勉強になりました。

利用者の意見もお聞きしながら、美味しく飲食いただく事に、生かしていきたいです。(デイサービス 竹内)



6月6日(火)より毎週火曜日に洲本市本町商店街「ともす」にて焼き菓子パンを納品し、販売いただいております。ともすの担当から「オーガニックハーブを使用した焼き菓子から製造を始めてはどうか。」と話し合っ、今後試作を行いたいと思います。

(おのころの家管理者 橋詰)

神戸長田ふくろうの杜

兵庫県神戸市長田区神楽町5丁目3の14の1
〒653-0836 電話：078 798 7940
FAX：078 798 7941

ビーチサンダルコンテスト

の結果はいかに！？

5月22日(月)から6月10日

(土)までの約3週間、ふくろうの杜でビーチサンダルコンテストを実施しました♪

第一週は放課後等デイサービス、二週が就労継続支援B型・生活介護、三週が地域密着型通所介護・地域拠点型一般介護予防です。

利用児・者さんがデザインしたビーチサンダル一覽表を食堂に掲示し、この夏、履いてみたいサンダルを三つ、お客様に選んでいただきまし。そして、合計98票という多くの票をいただくことができました。ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。それぞれの事業所からの結果を以下、お知らせします。



放課後等デイサービス

ふくろうっこ

★1位「海の世界」(中学3年) Sさん「びっくしたのと同時にうれしかったですー!」

★2位「星のくっ」(小学5年) Iくん「ええっっ!本当に!びっくります!」

★3位「おだやかな海」(小学5年)



就労継続支援B型(新長田ろうあハウス)生活介護(まいぺーす)

★1位「ひまわり」

Fさん「受賞うれしいです。ひまわりが可愛くて大好きなので描きました。」

★2位「景色」

Sさん「うれしいです。富士山とスカイツリーは大好きな山と建物です」

★3位「青空と向日葵」

Sさん「昔、家にいる時に、習いに行きました。その時に絵の色の塗り方、合わせ方を教えてもらいまし

た。コンテストの時も先生に教えてもらったことを思い出しながら描きました。受賞うれしいです!」



地域密着型通所介護

(ふくろうの杜)生活介護(まいぺーす)

地域拠点型一般介護予防

(生きがい)生活介護(まいぺーす)

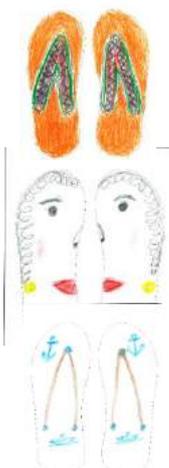
★1位「夏」

Kさん「軽い気持ちで応募したのに思いがけず金賞をいただけてとても驚きました。本当にありがとうございます。」

★2位「私たち Twins はあば、二人仲良くおしゃべり」

Nさん「大変うれしいです。この一言に尽きます」

★3位「私は元・船員 会社 大連汽船」



それぞれ色鮮やかな、個性が詰まったビーチサンダルに一足早い夏の到来を感じています。

このコンテストを通じて、ふくろうの杜の取り組みを少しでも地域や社会にアピールできたのではないかと思います。こういった取り組みや交流を今後も続けていきたいです。

(放課後等デイサービス 山本美由美)

※職員募集※

職 場：神戸長田ふくろうの杜 生活介護
職 種：生活支援員
職形態：常勤もしくは非常勤
※詳細は、お問合せ下さい



神戸長田ふくろうの杜
担当：眞木

TEL078-798-7940 FAX078-798-7941